

東通原子力発電所の「震源として考慮する活断層」の評価に関する補足調査の概要

1. 補足調査の調査範囲※1(計画)



2. 補足調査の目的

調査項目	調査目的	調査規模※1
① 反射法地震探査 地表踏査・露頭調査	地下深部の地層・基盤の分布等の地質構造を確認する。(敷地の北側、南側の2測線)	総延長: 約30km
	反射法地震探査測線沿いの地表地質状況を確認する。	反射法地震探査測線およびその周辺の範囲
② 地質確認ボーリング	敷地北方における地質分布、地層・岩相の物性等を確認する。	4本程度
③ 一切山東方断層確認ボーリング	一切山東方断層の傾斜等の傾向を確認する。	3本程度

※1 調査範囲や調査規模は現時点での計画であり、変更となる場合があります。



反射法地震探査で使用する起震車(イメージ)



ボーリング調査(イメージ)

3. 補足調査の期間(予定)

調査項目	~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備	■						
① 反射法地震探査 地表踏査・露頭調査		■	■	■	■	■	■
		■	■	■	■	■	■
② 地質確認ボーリング		■	■	■	■	■	■
③ 一切山東方断層確認ボーリング		■	■	■	■	■	■